

第79回日本消化器内視鏡学会総会
(2010.5.13-15、東京)

当診療所における細径経鼻
と通常径経口(ハイビジョン)
内視鏡の選択状況

くらみつ内科クリニック 倉光智之

目 的

当診療所で経鼻内視鏡導入時より経鼻内視鏡を行った連続206名に無記名一斉送付アンケートを行い、うち149名より回答を得、経鼻内視鏡検査は非常に好評であった。しかし、経鼻導入後3年経た現在において、経鼻内視鏡検査の割合は伸びていない。

今回、当診療所で行った上部内視鏡検査全症例を解析し患者の内視鏡選択状況を検討した。

対 象

対 象 : 2006年9月15日より2010年4月30日まで当診療所で上部内視鏡検査を施行した2676例

内視鏡機種 : オリンパス社製の経鼻 : GIF-N260(先端部外経4.9mm)、経口 : GIF-H260(先端部外経9.8mm)

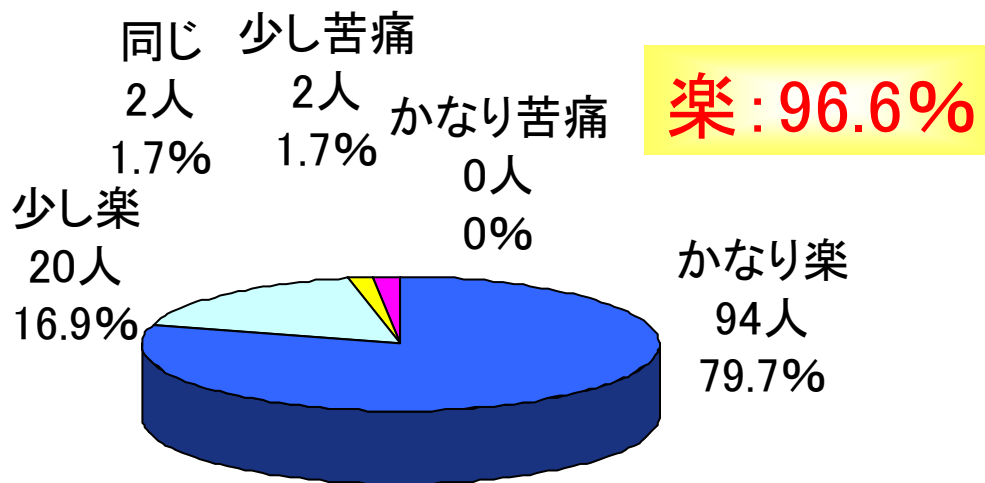
挿入ルート : 患者の希望に従った。悩んだ患者には、“経鼻は細く嘔気が少ないが解像度は若干劣る”、と説明した。ただし、12歳以下の患者は経鼻内視鏡を使用し経口で行った。

鎮静剤 : 希望者には全例使用し、使用率は1.01%(27/2676)であった。

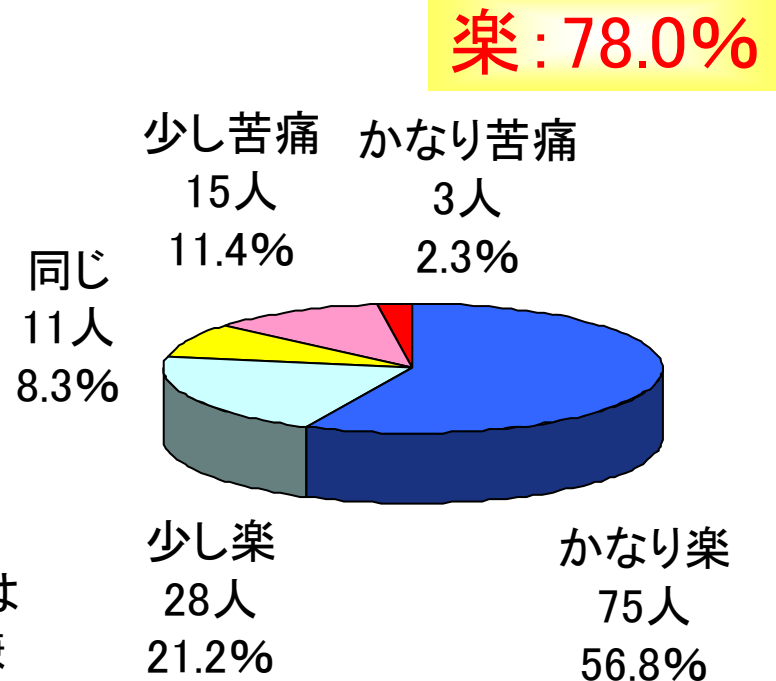
術 者 : 全例同一医師(消化器内視鏡専門医)

経鼻内視鏡導入1年後の患者アンケート結果(149名) (第74回秋田県医学会総会(2007年))

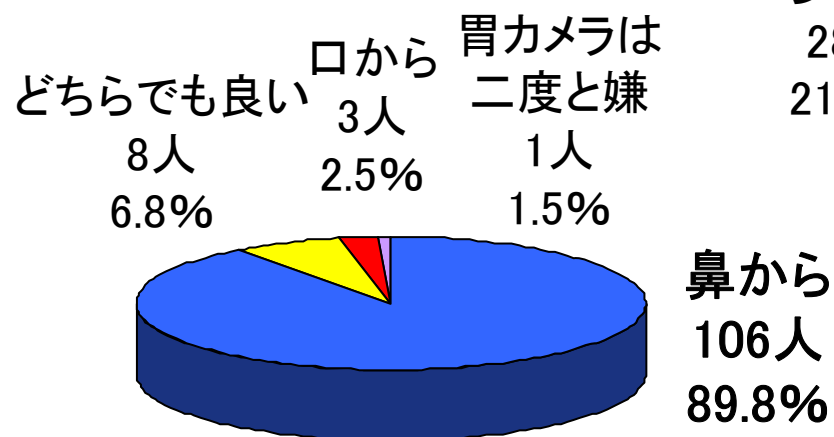
<経口法と比べて>



<バリウム透視と比べて>



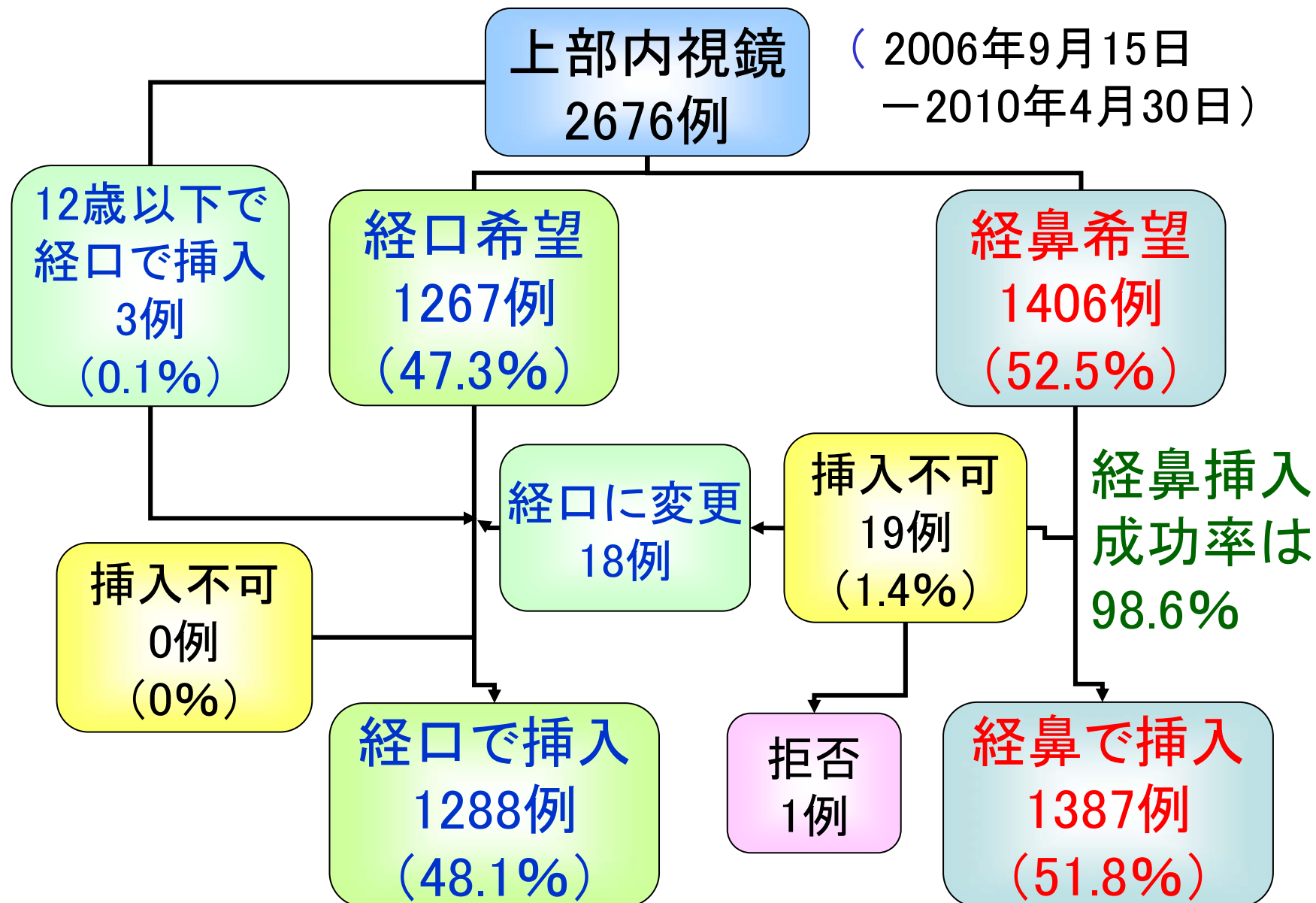
<次回は>



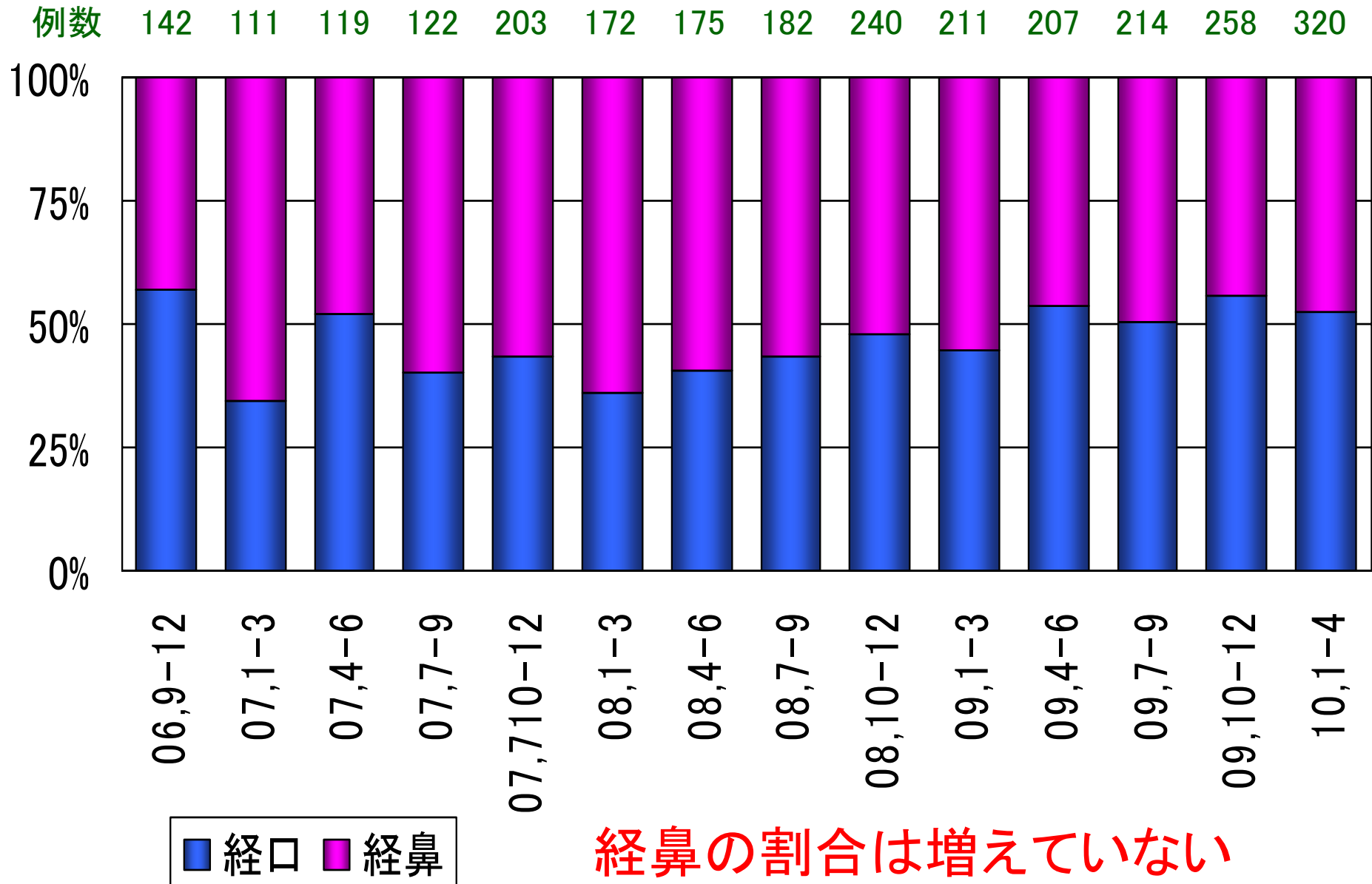
**次回も鼻:
90%以上**

一斉送付で
無記名形式
のアンケート
調査

上部内視鏡症例の内訳



検査時期と希望挿入ルート(2676例)



上部内視鏡検査の患者背景(2076例)

経路	例数 (%)	性別 * M:F (%)	年齢 **: 中央値 (最小—最大)
経鼻	1406 (52.5%)	677:729 (48.2%:51.8%)	55 (13—88)
経口	1270 (47.5%)	658:612 (51.8%:48.2%)	63 (8—87)

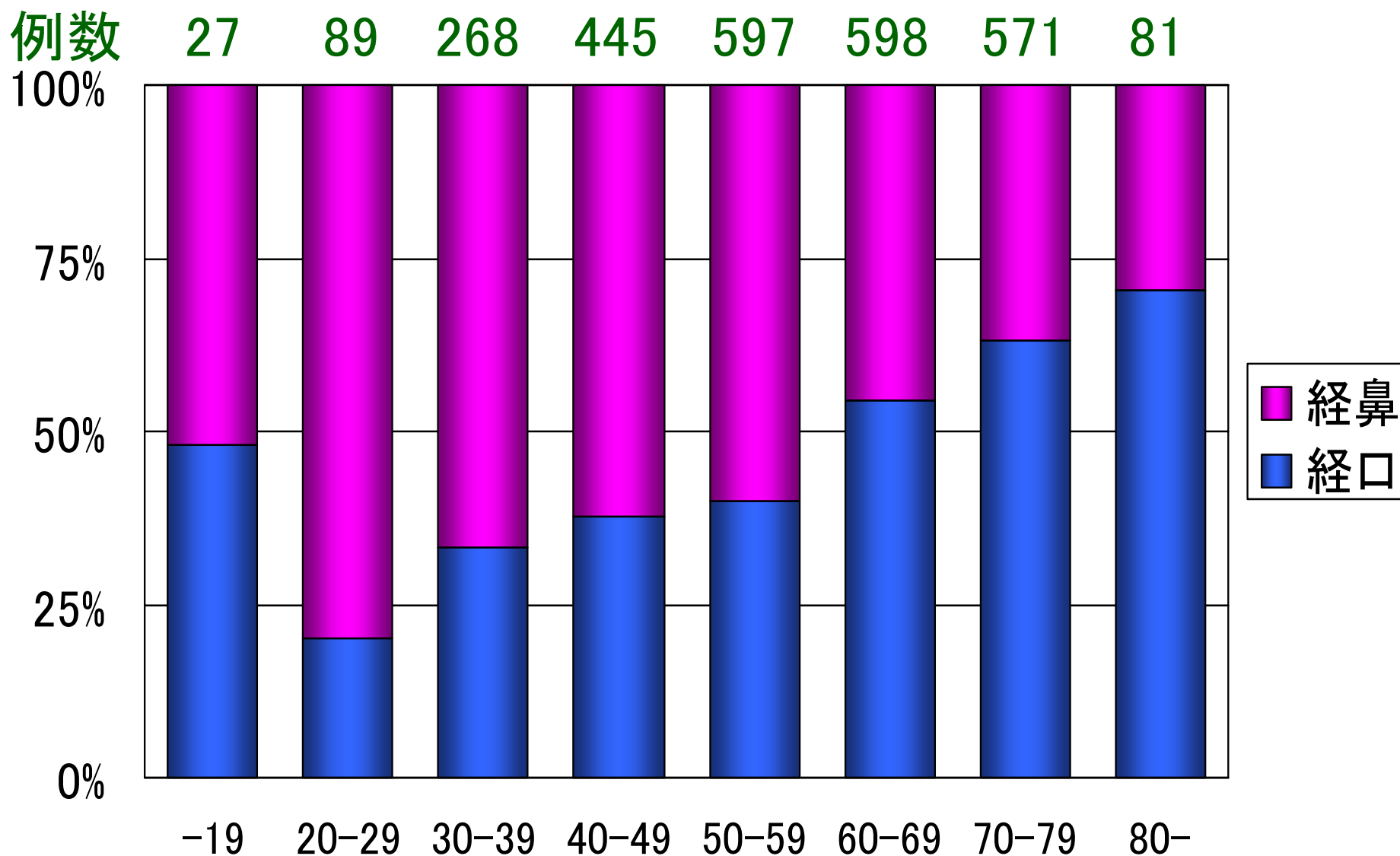
* Fisherの直接法

: $P = 0.063$

** Mann-Whitney 検定

: $P < 0.001$

年齢と希望挿入ルート(2676例)



年齢が上がるに従い経口内視鏡の選択が増えている

当診療所で2回以上上部内視鏡検査を受けた550例の1, 2回目の選択挿入ルート

口→口	: 235	(42.7%)
鼻→鼻	: 243	(44.2%)
口→鼻	: 29	(5.3%)
鼻→口	: 43	(7.8%)

当診療所で3回以上上部内視鏡検査を受けた284例の3回目までの選択挿入ルート

口→口→口 : 124 (43.7%)	} やっぱり 口派 9.8%	} 口派 53.5%
鼻→口→口 : 12 (4.2%)		
口→鼻→口 : 6 (2.1%)		
鼻→鼻→口 : 10 (3.5%)		
鼻→鼻→鼻 : 114 (40.1%)	} やっぱり 鼻派 6.4%	} 鼻派 46.5%
口→鼻→鼻 : 13 (4.6%)		
鼻→口→鼻 : 3 (1.1%)		
口→口→鼻 : 2 (0.7%)		

がん発見率

経口（ハイビジョン）：1267例

食道4例（早期3例うちESD根治1例、進行1例）

胃13例（早期11例うちESD根治8例、進行2例）

がん発見率 : 1.34% (17/1267)

50歳以上 : 1.63% (16/982)

早期がん発見率 : 1.10% (14/1267)

50歳以上 : 1.32% (13/982)

がんのうち進行がんの割合 : 17.6% (3/17)

経鼻 : 1408例

食道4例（進行4例）

胃13例（早期6例うちESD根治4例、進行7例）

がん発見率 : 1.20% (17/1408)

50歳以上 : 1.85% (16/865)

早期がん発見率 : 0.43% (6/1408)

50歳以上 : 0.58% (5/865)

がんのうち進行がんの割合 : 64.7% (11/17)

結 果

1. 経口選択と経鼻選択はほぼ半々であった。
2. 経鼻導入後に経口選択の減少傾向は認めなかった。
3. 性別では選択挿入ルートに有意差はなかったが、年齢では高齢になるに従い経口を選択する割合が有意に増加した。
4. 3回検査を受けていた患者の80%以上は同一挿入ルートを選択していた。
5. 経鼻では進行癌が多く発見されていた。
6. 早期がんの発見率は経口の方が高かった。

まとめ

経口内視鏡を受容している患者には、まだ経口に比べ画質や操作性が劣っている経鼻内視鏡を安易に勧めるべきではない。

経鼻内視鏡は進行癌が高率に発見されており、内視鏡検査を拒絶していたがん患者の掘り起こしに非常に役立っている。